事　　　項	ももの新しい病害虫防除暦は晩生種まで対応できる
ね　ら　い	本県のもも病害虫防除暦は、これまで中生種の「あかつき」を基準に作成してきた。しかし、最近、晩生種「川中島白桃」の作付け面積が増加してきたことから、晩生種にも対応した防除の強化が望まれている。そこで、早生種から晩生種までの病害虫を防除できる体系を検討し、実用性が認められたので普及に移す。
指導奨励内容	1　病害虫防除体系 平成18年青森県もも病害虫防除暦の「あかつき基準」をはずし、以下の事項を新設あるいは変更する。 (1) 新設 ア　散布時期：「８月下旬」と「９月上旬」の２回を加える。 イ　対象病害虫：せん孔細菌病を３～６回目に配置する。 (2) 変更 ア　防除回数：11回を13回とする。 イ　散布時期：「収穫10日前」を「８月上旬」、「収穫前」を「8月中旬(あかつき収穫前)」に変更する。 ウ　対象病害虫：灰星病を12回目と13回目に、シンクイムシ類を11回目と12回目に、モモハモグリガを13回目に追加する。 2　防除作業上の注意事項 平成18年青森県もも病害虫防除暦の防除作業上の注意事項を踏襲するが、以下の対策を追加あるいは変更する。 (1)　追加 ア　シンクイムシ類：８月中旬及び下旬の防除は、早・中生種では必要ない。 (2)　変更 ア　せん孔細菌病：アグレプト水和剤及びアグリマイシン-100は使用時期が収穫60日前に変更(平成18年11月15日）になり、８月上旬までに収穫する品種では、６月以降使用出来ない。 イ　モモハモグリガ：防除時期が晩生種「川中島白桃」の収穫時期に当たるため、「多発園では９月上旬にスカウトフロアブル2000倍を特別散布する。」とする。

指導奨励内容

3　8月以降の防除体系

旧体系（あかつき基準）

月	旬	対象病害虫	回数 散布量	散布時期	基準薬剤 殺菌剤	基準薬剤 殺虫剤
8月	上	灰星病 シンクイムシ類 カメムシ類	10 400ℓ	収穫10日前	ロブラール水和剤　1500倍 又はパイコラール水和剤　2000倍 又はトリフミン水和剤　1500倍 又はアンビルフロアル　1000倍 又はストロビードライフロアブル　2000倍	ダイアジノン水和剤　1000倍 又はモスピラン水溶剤　4000倍 又はダントツ水溶剤　2000倍 又はスカウトフロアブル　2000倍 又はジノテフラン剤　2000倍
8月	中	灰星病	11 400ℓ	収穫前	ロブラール水和剤　1500倍 又はパイコラール水和剤　2000倍 又はトリフミン水和剤　1500倍 又はアンビルフロアル　1000倍 又はストロビードライフロアブル　2000倍	
11月〜3月		コスカシバ	1 100〜200ℓ	休眠期 （落葉後〜催芽前）		ラビキラー乳剤　300倍 又はガットキラー乳剤　100倍

新体系

月	旬	対象病害虫	回数 散布量	散布時期	基準薬剤 殺菌剤	基準薬剤 殺虫剤
8月	上	灰星病 シンクイムシ類 カメムシ類	10 400ℓ	8月上旬	ベルクート水和剤　2000倍 又はストロビードライフロアブル　2000倍	ダイアジノン水和剤　1000倍 又はモスピラン水溶剤　4000倍 又はダントツ水溶剤　2000倍 又はスカウトフロアブル　2000倍 又はジノテフラン剤　2000倍
8月	中	灰星病 シンクイムシ類	11 400ℓ	8月中旬 （あかつき収穫前）	ロブラール水和剤　1500倍 又はＥＢＩ剤	スカウトフロアブル　2000倍
8月	下	灰星病 シンクイムシ類	12 400ℓ	8月下旬	ストロビードライフロアブル　2000倍	スカウトフロアブル　2000倍
9月	上	灰星病 モモハモグリガ	13 400ℓ	9月上旬 （川中島白桃　収穫前）	ロブラール水和剤　1500倍 又はＥＢＩ剤	
11月〜3月		コスカシバ	1 100〜200ℓ	休眠期 （落葉後〜催芽前）		ラビキラー乳剤　300倍 又はガットキラー乳剤　100倍

期待される効果

早生種から晩生種に対応した防除体系により病害虫被害を回避し、高品質安定生産に寄与する。

普及上の注意事項

1　本資料は平成19年３月１日現在の農薬登録に基づいて作成した。

2　農薬を使用する場合は、必ず最新の「農薬登録情報」(http://www.maff.go.jp/nouyaku/)を確認すること。

3　農薬は、もも園以外、他の作物、近隣の住宅地等に飛散させない。

担当部署（担当者名）	青森県農林総合研究センターりんご試験場　県南果樹研究センター（村井智子、小笠原博幸、成田治）	対象地域	県下全域

発表文献等

平成16〜17年度　農林総合研究センターりんご試験場県南果樹研究センター成績概要集

平成18年度 農林総合研究センターりんご試験場成績概要集、あおもり農業 平成19年2月号

【根拠となった主要な試験結果】
表１　もも晩生種に対応した防除体系の実証試験

（平成18年　青森農林総研りんご試県南果研セ）

		殺菌剤		（せん孔細菌病防除剤）		殺虫剤	
散布時期	散布日	使用薬剤	使用倍数	使用薬剤	使用倍数	使用薬剤	使用倍数
収穫後	10月３日＃			IC-ボルドー412	30		
発芽期	4月7日	パルノックスフロアブル	500				
開花直前	5月2日			ICボルドー412	30		
落花10日後	5月31日	サニパー	600	アグレプト水和剤	1000	ダーズバンDF	3000
落花20日後	6月13日	パルノックスフロアブル	500	マイコシールド	2000	ダーズバンDF	3000
落花30日後	6月20日	サニパー	600			ダーズバンDF	3000
落花40日後	6月29日	ベルクート*フロアブル	2000	アグレプト水和剤	1000	ダーズバンDF	3000
6月末～7月始め	7月10日	ベルクート*フロアブル	2000			アグロスリン水和剤	1000
7月中旬	7月20日	ダコニール1000	1000			スタークル顆粒水溶剤	2000
7月下旬	8月1日	ダコニール1000	1000			モスピラン水溶剤	4000
8月上旬	8月10日	ストロビードライフロアブル	2000			スカウトフロアブル	2000
8月中旬	8月21日	アンビルフロアブル	1000			スカウトフロアブル	2000
8月下旬	8月31日	ストロビードライフロアブル	2000				
9月上旬	9月13日	ロブラール水和剤	1500				

病害と薬害の発生状況

病害名	品種	調査日	調査果数（果）	発病果率（%）	薬害
灰星病	あかつき	8月22日	200	0	なし
灰星病	川中島白桃	9月15日	600	0	なし
せん孔細菌病	川中島白桃	9月7日	300	0.3	なし

（注）１試験場所：県南果樹研究センター圃場、散布方法：スピードスプレーヤによる散布。
２調査果数：３樹供試した合計果数（ただし、あかつきの灰星病は２樹）
３＃：散布年平成17年、＊：登録はあるが本県防除指針未採用（水和剤は既採用）

表２　８月下旬、９月上旬の灰星病防除

（平成18年　青森農林総研りんご試県南果研セ）

		試験区		無散布区
散布時期	散布日	使用薬剤	使用倍数	
8月下旬	8月28日	ストロビードライフロアブル	2000	－
9月上旬	9月11日	ロブラール水和剤	1500	－
調査果数		100		100
灰星病発病果率（%）		0		0
薬害		なし		なし

（注）１　試験場所：県南果樹研究センター圃場、散布方法：８月中旬まで表１の防除を行った。その後は動力噴霧器で散布し、スカウトフロアブル2000倍２回使用。
供試品種：川中島白桃
２　調査果数：１樹について９月15日に調査を行った。

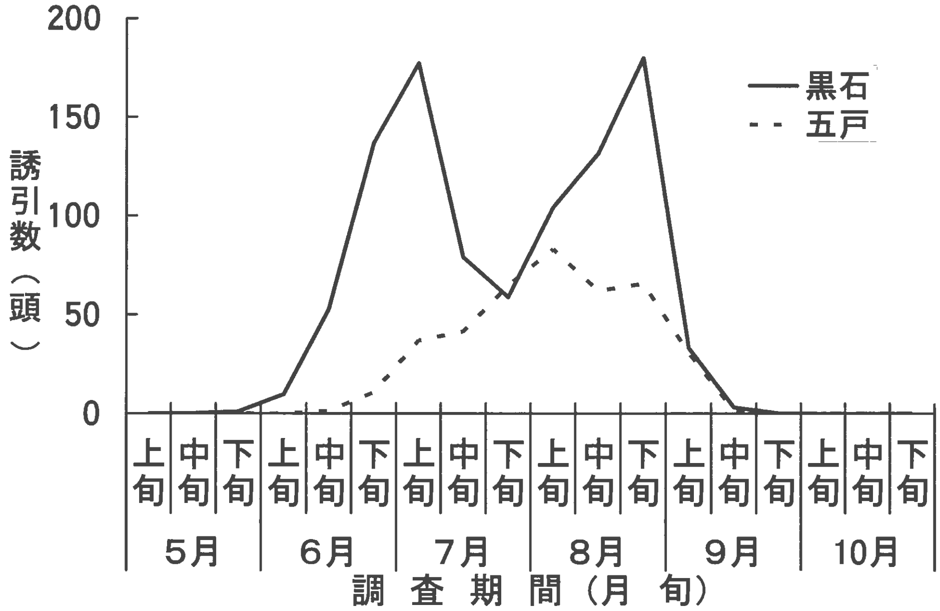

図１　フェロモントラップにおけるモモシンクイガ雄成虫の誘引消長（平年値）

（平成18年　青森農林総研りんご試・りんご試県南果研セ）

（注）１　調査樹：黒石；りんご、五戸；もも

２　黒石：平成13年から平成18年までの６か年平均、五戸；平成９年から平成18年までの９か年平均。

表３　シンクイムシ類防除剤散布時期と被害果の発生

（平成16、17、18年　青森農林総研りんご試県南果研セ）

年次	区名	6月末～7月始め	7月中旬	7月下旬	8月上旬	8月中旬	8月下旬	供試品種	調査日	調査果数	被害果率(%)
平成16年	散布区	○	－	○	○	－	－	大久保	8月18日	263	8.0
	無散布区	－	－	－	－	－	－			364	60.7
平成17年	散布A区	○	－	○	○	○	－	大久保	8月30日	404	0
	散布B区	○	－	○	○	－	－			404	0
	無散布区	－	－	－	－	－	－			407	1.7
平成18年	散布C区	○	○	○	○	○	－	川中島白桃	9月12, 15日	281	0
	散布D区	○	○	○	○	○	○			340	0
	無散布区	－	－	－	－	－	－	大久保	8月28, 29日	348	73.3

（注）１　○：防除薬剤散布、－：防除薬剤無散布、網掛け：「あかつき」基準の防除暦で散布時期の設定がなく無散布。

２　調査：被害果は果実を切断して調査した。被害果はモモシンクイガによる被害である。

３　供試薬剤：試験年度の青森県農作物病害虫防除指針に記載されているシンクイムシ類防除薬剤を使用。